



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2025 年 9 月 20 日 (土)
第 67 号【隔月刊・FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



縄文－弥生の移行 「土偶」「クマ」から紹介

三内丸山遺跡

特別展、10 月 5 日まで

特別史跡・三内丸山遺跡で 10 月 5 日 (日) まで、特別展「縄文時代のおわりークマとイネと土偶」が開かれています。北東北の縄文人たちがどう弥生文化を受け入れたか、縄文時代晩期を彩る「亀ヶ岡式土器」(写真①)や、コメづくりに関する出土品から紹介しています。



北東北の「亀ヶ岡文化」が終わりを迎えるころ、西日本では既に水田耕作が始まっていた。その波は徐々に北東北まで及び、縄文時代晩期の土器と、弥生文化の流れをくむ土器が混在する地域がみられるようになります。前後して、水田耕作が始まり、北東北も弥生時代へ移行します。

弥生時代前期の水田跡が見つかった遺跡の一つ、弘前市・砂沢遺跡の土器(砂沢式土器、写真②)の文様は亀ヶ岡式土器の最後の時期の特徴を受け継いでおり、文化ががらりと入れ替わったのではない様子がうかがえます。

その後、コメづくりと弥生文化の一部は北東北に地域的に浸透しますが、土偶が姿を消した西日本と異なり、縄文文化に回帰したような土偶や土偶型容器が引き続き作られます(写真③)。また、縄文時代晩期末の土器や砂沢式土器は津軽海峡を越えて札幌市や釧路市で見つかり、当時の交易ルートの広がりが見えます。

このほか、縄文・弥生時代をまたいで、クマをかたどった土製品やクマの焼骨(写真④)が出土し、クマが当時の社会で特別な存在であったことをうかがわせます。

9 月 28 日 (日) までの土曜・日曜・祝日は、午前 11 時から 20 分程度のギャラリートークを行います(申込不要、定員 15 名・先着順、9 月 21 日を除く)。観覧時間は 9 月 30 日 (火) までが 9:00～18:00、10 月 1 日～5 日は 9:00～17:00、いずれも入館は閉館 30 分前まで。9 月 29 日 (月) は休館。観覧料は一般 990 円、大学生等 500 円、高校生以下は無料で、特別展の観覧料で遺跡を含む常設展を見ることができます。



棟方志功 記念展「青森の子 世界のムナカタ」

青森県立美術館

没後 50 年、原点伝える

青森県立美術館で 11 月 3 日 (月・祝) まで、同館が所蔵する奈良美智、成田亨、馬場のぼる、伊藤二子の絵画などを紹介する「コレクション展 2025-2」が開かれています。その特別企画として、棟方志功没後 50 年記念展「青森の子 世界のムナカタ」が開催されています。また、弘前市生まれの画家・佐野ぬい (1932-2023) の企画展「佐野ぬい：まだ見ぬ『青』を求めて」が 10 月 13 日 (月・祝) まで開かれています。



棟方志功は 1903 年、青森市に生まれ、1975 年 9 月 13 日に亡くなりました。記念展は、彼の出生の地であり、創作の原点である故郷・青森とのつながりに焦点を当て、通常、一般公開されていない作品、作家ゆかりの品など約 100 点を展示しています。

母校・長島小学校児童の安全を祈って同校に寄贈された「児童学生安全祈願観音像図」は、同校の創立九十周年式典の場で即興で仕上げた作品です。青森市・合浦公園の名を記した書「合浦」からは、棟方が愛する合浦公園への想いが伝わってくるようです。



津軽地方の人々が旧暦の 8 月 1 日、「五穀豊穰」「家内安全」を祈願して岩木山に集団で登る行事を描いた



「御山参詣人図」からは、にぎやかな登山囃子が聞こえてくるかのようです。1968 年の青森市制 70 周年を記念して当時の市長に贈られた「神鷲」は、今も市長室に飾られています。

また、1961 年に竣工した青森県庁新庁舎のために制作された「花矢の柵」(写真①)、縄文土器とその文様を採り入れた作品を並べた展示(写真②)が目を引きま。

コレクション展の観覧料は一般 700 円、大学生 400 円、18 歳以下及び高校生は無料です。開館時間は午前 9 時 30 分から午後 5 時 (展示室への入場は午後 4 時半まで)。9 月 22 日、10 月 14 日～16 日、27 日は休館です。



企画展「佐野ぬい：まだ見ぬ『青』を求めて」は、雪原を思わせる白い壁面に、「佐野ブルー」と言われた青を基調とする作品など約 100 点が鮮烈な印象を残します。

その青の原点は雪どけの頃の津軽の空といい、小品「岩木山と弘前の街」(写真③上)から、画家の「心の空、うかがえるようです。その下には、淡い青が描かれ始めていた絶筆(写真③下)が並びます。これらの隣の「セルリアンブルーの街」(写真④)は、亡くなる前年に描かれたとは思えない、迫りに満ちた大作です。

部屋を暗くして作品のみに白い光を当てた展示(写真⑤)は、作品自体が光を放つようで、新たな横顔を見せてくれます。

観覧料は一般 1,700 円、大学生 1,000 円、18 歳以下と高校生は無料。9 月 22 日は休館。



佐野ぬい：まだ見ぬ「青」を求めて



青西高

統合控えボランティアで交流

浪岡高

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥7

地域ねぶた運行支援／クルーズ船観光客を歓迎

青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」の今夏の交流ボランティア活動に、2027年度に同校と統合する青森県立浪岡高校の生徒たちが初めて参加しました。両校の生徒は仲良く打ち解けながら、新たな歴史へのステップを刻み始めました。

交流の舞台となったのは、青森西高校に近い青森市の「石江江渡下町会」による「地域ねぶた」の運行と、青森中央埠頭に入港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の歓迎です。

地域ねぶた運行には19人が参加しました。生徒たちはねぶた囃子の太鼓の引き手などを務め、約200人の跳ね人や囃子方とともに地元を回って、沿道の人たちから大きな拍手を浴びていました。

クルーズ船歓迎には22人の生徒が参加し、下船した外国人観光客らに折り紙で作った金魚ねぶたを配ったり、一緒に写真を撮ったりしていました。

浪岡高校2年の毛利紗那さんは「慣れないことばか

りでしたが、青森西高校の生徒が優しく教えてくれたおかげで、楽しい活動になりました」、3年の鎌田莉愛さんは

「青森西高校との交流活動があれば、また参加したい」と話していました。また、寺田圭吾教諭は「学校間の交流に少し緊張していましたが、生徒の交流を見ていたらなくなり、かけがえのない行事の1つになりました」と振り返っていました。

一方、青森西高校2年の新谷好花さんは「初対面だったので話しかけるのが難しかったですが、同年齢という



こともあり、楽しく交流しながら活動をすることができました」、3年の山口宇美さんは「一緒に観光客の方をおもてなしすることができ、より結束力を高められました」と手応えがあった様子でした。

青森西高校の成田由希教諭は「とても意義深い活動になりました。統合に向けてお互いが少しずつ歩み寄るきっかけになれば」と抱負を語っていました。

新城中・新城小・新城中央小 新青森駅で「折り紙金魚ねぶた」配付

新青森駅に近い青森市立新城中学校、新城小学校、新城中央小学校の児童生徒が8月1日、同駅の新幹線コンコースで、手作りの「折り紙金魚ねぶた」を青森ねぶた祭の観光客や帰省客に配付し、喜ばれました。

配付には3校から児童生徒32人、教員11人が参加し、850個を下り列車4本、上り列車1本の利用者に配付しました。

また、新城中の生徒が作った「折り紙金魚ねぶた」は



青森駅と弘前駅にも贈られ、青森駅の装飾や弘前ねぶたまつりの観光客らへのプレゼントに活用されました。

開業15周年イベント

「新青森駅まつり」10月18日（土）

新青森駅で10月18日（土）午前10時から午後3時まで、新青森駅東口の駅前広場とバスプール、新青森駅舎内を会場に「新青森駅まつり」が開かれます。

2010年12月4日の東北新幹線全線開通・新青森駅開業から15周年のイベントとして開催されます。パトカーや白バイ、消防車、救急車、JRバス東北と青森市営バスの車両、JR保守車両などの展示、JR東日本の設備のメンテナンス業務や新幹線乗務業務のPR、グループ会社の展示・販売、青森西高校の吹奏楽部による演奏や書道部の展示が行われます。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（6月1日～9月30日は18:00）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日

観覧料 一般：500円（400円）大学生等：250円（200円）
高校生以下：無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術
三内丸山遺跡センター マトリシア 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月26日～1月1日）

※企画展開催時、展示替え等により変更する場合あり
観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／
18歳以下および高校生 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約15分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ



Instagram

青森大学
社会連携
センター

